

おや子生き物探検隊

対 象：小学生以上のおや子
 人 数：親子 10 組 (20 人) ~ 親子 15 組 (30 人)
 教科／分野：総合的な学習の時間 (理科・社会)
 授業時間数：10 時間 (毎回 2 時間活動 (春・夏・秋・冬))
 場 所：屋外 屋内 (公民館等)

ESD プログラ ムへの 想い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きものへ関心を持ち、自然環境、地域、私たちの暮らしなどつながっていることを知るために、フィールドでの体験を重視した。 ・ 生き物と人が住める環境を、次の世代へ残していきたい気持ちを育みたい。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節 (春・夏・秋・冬) の生き物探検を通して、生き物への関心が深まる。 ・ 多様な生き物が棲むためには、周りの自然環境の大切さと、生物を保全・再生するための整備活動をしている人々がいることを知り、自分たちでもできることに気づき、行動する。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとに棲む生き物が違うこと、また生き物の成長過程を体感できる。 ・ 生物が棲める環境づくり (ビオトープ) を、長年継続して活動してきた結果、多様な生き物が棲める場になっていることを体感できる。 ・ 周囲の環境 (畑・斜面林・湧水・田んぼ・川) から、生物と人の暮らしなど体感できる。 ・ 親子で活動することで、情報や思いなど共有できる。
持続可能 な社会づ くりの構 成概念	<p>多様性：里の周りに、台地・斜面林・湧水・田・川・神社など多様な環境があることで、多様な生物が生息していることに気づく。</p> <p>相互性：生物が生息する環境づくりに、農業・人の暮らしなど関わりがあることを知る。</p> <p>連携性：生き物が棲める場づくりに、多くの人が協力し、連携していることを知る。</p> <p>責任性：生きものが棲める環境をつくるために、私ができることを見つける。</p>
重視する 能力・態 度	<ul style="list-style-type: none"> ③多面的・総合的に考える力。 ④コミュニケーションを行う力 ⑤進んで参加する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦他者と協力する態度

プログラムの流れ

時 間	ねらい	方法 場所	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外活動での安全について知る ・ 春の生き物と周囲の環境を体験 ・ ビオトープ (ほたるの里) ができた時の様子を知る。 		<p>◆春の生き物探検</p> <p>*春の昆虫・水辺の生き物を探す (主にカエル・カワニナ他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物探検隊についてのレクチャー ・ 生き物を探す→捕まえた生き物を全員で見て、専門家の解説を聞く ・ ビオトープができた当初と現在の様子を、写真や話を通して、伝える。

	<ul style="list-style-type: none"> 夏の夜の生き物の活動の様子を体験する 車の光など生き物への影響を知る 		<p>◆夏の生き物探検</p> <p>*夏の夜の生き物を観察する（ヘイケボタル・セミ・クワガタ他）</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜の生き物を探す→捕まえた生き物を全員で見て、専門家の解説を聞く 光に弱い生き物について知る。
	<ul style="list-style-type: none"> 秋の生き物を知る 周りの田んぼの稲刈りを見て、暮らしと生き物のつながりを体感する 		<p>◆秋の生き物探検</p> <p>*秋の生き物を探す（主にバッタ、トンボ・チョウ他）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物を探す→捕まえた生き物を全員で見て、専門家の解説を聞く。 稲刈りなど私たちの暮らしと生き物のつながりを知る
	<ul style="list-style-type: none"> 冬の生き物を知る 湧水と台地のつながりを知る。 生き物が住むために、私ができること。 		<p>◆冬の生き物探検隊</p> <p>*冬の生き物を探す（冬ごもりしている昆虫探しとニホンアカガエルの卵塊他）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物を探す→捕まえた生き物を全員で見る→専門家の解説 湧水をみて、台地とのつながりを知る。 生き物が棲める環境づくりについて、私ができることを見つける
<p>SDGs との 関連性</p>	<p>3：健康と福祉 4：質の高い教育 9：産業・技術革新・社会基盤 11：持続可能なまちづくり 12：持続可能な消費と生産 15：陸上の資源 17：目的達成に向けたパートナーシップ</p>		
<p>学校・地 域等との 連携上の 考慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親子での参加体験は、お互いが学びあう良い機会となるので、可能であれば、親子参加が望ましい。 フィールドでの活動となるので、安全管理など連携して役割を担う。 		
<p>対象を発 展させる 可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> こどもだけの参加も、対応可能。 単発のプログラムのみ参加にも対応可能。 		
<p>その他 補足事項</p>	<p>服装：長そで、長ズボン、動きやすい服装、靴、帽子、 持ち物：網、虫かご、タオル、飲み物、虫刺され薬品等 ※熱中症対策、防寒等季節に適した服装等配慮する</p>		

プログラム作成者名（団体名）：桑波田和子（八千代市ほたるの里づくり実行委員会）